

〔古今要覽稿草木〕業平竹

篠竹

業平竹一名和合竹。一名なよ竹。は、高さ一丈四五尺にして、圍み一寸六七分、その根上第一節より每節左右互に凹處および小黃芽あり、その凹處は下節より上節下に至るといへども、常竹よりはその幅至てせまくして且淺し。○中略此竹今本所中の鄉南藏院境内なる業平天神の社側、および龜井戸天神の社前、その外本所中處々に多し。是尾竹は蓋し竹譜詳錄にて載る所の、龍

〔古今要覽稿草木〕小町竹

こまちたけは漢名を篠竹といひ、琉球名を麻手古竹といふ、今本所外手街辨天小路青木曙左衛門庭中にあり、其竹高さ一丈五尺許、徑六七分、節隆起して頗る筇竹の趣ありといへども、筇竹よりは至て低し、その節間相ざること、おほよそ一尺餘、毎節三枝を生じ、その枝諸竹より長し、毎枝七八葉、或は十葉、或は十二三葉をつゝ、その一葉の状苦竹に似て、極めて大にして、頗る若葉の如く、その葉本すべて細褐毛ある事、又苦竹の如し、此筍諸竹と同じく、四五月の頃に生ずれども、秋に至れば、また根節上再び小筍を抽出て、年を経て枝となる、此竹嶺南に生ずるものは、秋根旁大筍を出し、綿々として絶ずと竹譜詳錄いへ共、本邦のものは然らず、これは風土に寒暖の異なる事あるによりて也。○下略

大名竹

〔大和本草九竹〕大名竹 倭名ナリ、節間長ク赤黃條アリ、竹柔ニシテ不堪爲器用。

〔和漢三才圖會芭木〕筱竹

大妙竹 狀似長節竹而大周三寸許、葉亦大也、可作笛。

〔倭訓栞不編二十三〕ふえたけ 笛の竹なり、通雅に有雅笛有差笛注雅差共以美竹作、俗呼曰笛竹と見えたり。

〔百品考上〕四季竹 一名四時竹